

平成28年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1	より高い志を持たせる 進路指導	(1) 校内外からの講師による講演会、ホーム担任等による面談を繰り返すなど、入学後の早い段階から進路についてより高い目標に挑戦する意識づけを行うとともに、保護者への情報提供を充実させる。	① 学年段階に応じたキャリア教育を実施し、講演会や体験型の講座、面談等を行う中で、進路目標を明確化できるよう指導する。	進路指導課 各学年	本校のキャリア教育に関して昨年度12月の生徒の肯定的評価の割合は67.5%(D)であった。今年度は「進路ノート」を活用して学習内容やその意義を記録させることをとおして、生徒の進路意識を高めていく。	【満足度指標】 本校で行うキャリア教育や面談指導が進路を考えるうえで参考になったとする生徒の割合が80%以上である。	本校の行うキャリア教育や面談指導が進路を考えるうえで参考になったとする生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を再検討する。	7月と12月に生徒への調査を実施する。
		② ホーム担任等との面談を繰り返し、生徒が自己理解を深め、自己肯定感を高め、より高い進路目標を設定できるように支援する。	進路指導課 1・2年	進路について志を高く保つことができず、周囲の状況に左右される生徒が見受けられる。1・2年生の進学希望者のうち、四年制大学を志望する生徒の割合は、60%未満である。	【成果指標】 1・2年生の進学希望者のうち、四年制大学を志望する生徒の割合が60%以上である。	1・2年生の進学希望者のうち、四年制大学を志望する生徒の割合が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等を再検討する。	9月と1月に生徒への調査を実施する。	
		③ 大学入試センター試験を目標とする生徒が増えるよう指導する。	進路指導課 3年 各教科	昨年度大学入試センター試験を受験した3年生は191名(B)であったが、そのうち3教科以上受験した生徒は170名であった。今後、より高い進路目標への挑戦を促すために、3教科以上の受験を勧めていく。	【成果指標】 センター試験において3教科以上受験した3年生の割合が65%以上である。	センター試験において3教科以上受験した3年生の割合が A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、進路説明会や面談の内容およびセンター試験に向けた教科指導のあり方を再検討する。	1月末に調査する。	
		④ 推薦入試ばかりでなく、個別学力試験で合格するよう指導する。	進路指導課 3年 各教科	昨年度の3年生で国公立大学個別学力試験へ受験した生徒は31人であった。一昨年度と比べて5人増加しており、後期試験での第1志望校合格者も2人出た。粘り強く志望校に挑む気運が醸成されつつある。	【成果指標】 個別学力試験で国公立大学への出願者が40人以上である。	個別学力試験で国公立大学への出願者が A：45人以上 B：40人以上 C：35人以上 D：35人未満	C、Dの場合、教師による志望校研究や生徒の学力把握のあり方および5教科学習を維持させる教科指導のあり方を再検討する。	3月末に調査する。	
		⑤ 学習時間の調査を通して、自ら見通しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習習慣の確立を図る。	教務課 各学年 各教科	昨年度11月9日から3月6日(3年生は2月10日)までの調査結果で、2時間以上家庭学習をした生徒の割合は、平均で1年生で21.3% 2年生で24.9% 3年生で40.8%であった。	【成果指標】 1・2年生のうち、平均2時間以上家庭学習をしている生徒の割合が30%以上である。	1・2年生のうち、平均2時間以上家庭学習している生徒の割合が A：35%以上 B：30%以上 C：25%以上 D：25%未満	C、Dの場合、普通科高校としての学習指導のあり方を再検討する。	毎日記録するとともに、毎月集計し推移を注視する。	
		⑥ PTA広報誌やメール配信等を活用し、本校における進路学習について、保護者への情報提供を一層充実させる。	副校長 総務課 情報課 進路指導課	本校における進路学習に関して昨年度12月の保護者の肯定的評価の割合は78.5%(C)であった。	【満足度指標】 PTA広報誌、学校HP、メール配信等の情報によって、本校の進路学習についてよく理解できるとする保護者の割合が80%以上である。	PTA広報誌、学校HP、メール配信等の情報によって、本校の進路学習についてよく理解できるとする保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、情報提供の媒体および提供する情報の内容等について再検討する。	7月と12月に保護者への調査を実施する。	
		(2) 学力スタンダード、シラバスとの整合性をとりながら、授業・補習・朝学習を体系化する。また45分授業に見合った教授内容の精選・方法の再検討を行い、生徒の更なる学力向上を目指す。	① 学力スタンダードの作成・実践および評価の研究をとおして、各教科が協議を深め組織的に指導力を向上させる。	教務課 各教科	昨年度1年生で履修する科目を中心に学力スタンダードを作成した。今年度は授業での実践とその評価が始まる。さらに2年生以降で履修する科目を中心に学力スタンダードを作成する。	【満足度指標】 学力スタンダードの作成・実践および評価の研究をとおして各教科の指導力が向上したと思う教員の割合が80%以上である。	学力スタンダードの作成・実践および評価の研究をとおして各教科の指導力が向上したと思う教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、各教科における研究・協議のあり方を再検討する。	7月と12月に教員への調査を実施する。
		② 授業をベースとして、補習、朝学習等の体系化を進める。	教務課 各学年 各教科	昨年度12月の調査で、学習意欲が向上し学力が定着したと思う生徒の割合は63.2%(C)であった。	【満足度指標】 学習意欲が向上し学力が定着したと思う生徒の割合が70%以上である。	学習意欲が向上し学力が定着したと思う生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、授業改善の状況、生徒の学習時間や成績等と照らし合わせ、指導法を再検討する。	7月と12月に生徒への調査を実施する。	

平成28年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
2	高校生としてまた将来の社会人として信頼される人間性を育む生活指導	(1)遅刻をしない、挨拶をきちんとする等規律ある学校生活、規則正しい家庭生活を送り、誠実で品位ある言動ができる生徒を育成する。	①	生徒指導課 各学年	昨年度末までの調査を集計した結果、遅刻の延べ人数は前年度と比較して5.2%の減少であった。	【成果指標】 遅刻延べ人数が前年度と比較して10%以上の減少である。	遅刻延べ人数が前年度と比較して A：20%以上減少した B：10%以上減少した C：10%未満の減少であった D：増加した	C、Dの場合、特に常習者の遅刻原因を究明し、生徒・保護者とともに対応策を検討する。	毎日記録するとともに、毎月集計し推移を注視する。
			②	保健相談課 各学年	学校から排出される可燃ゴミの量が、平成27年度は平成26年度に比べて、750kgも増加した。再利用可能な紙がゴミとして捨てられている。	【満足度指標】 ゴミの分別、配付プリントの持ち帰り、教室やトイレの消灯等に積極的に取り組んでいる生徒の割合が65%以上である。	ゴミの分別、配付プリントの持ち帰り、教室やトイレの消灯等に積極的に取り組んでいる生徒の割合が A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を再検討する。	7月と12月に生徒への調査を実施する。
			③	特活指導課 各学年 各部活動	昨年1年間でボランティア活動に参加した生徒の延べ人数は全生徒数の81.4%（A）であった。生徒の人間性向上のためボランティア活動をさらに充実・発展させていく。	【成果指標】 ボランティア活動に参加した生徒の延べ人数が全生徒数の80%以上である。	ボランティア活動に参加した生徒の延べ人数が全生徒数の A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	7月と12月に生徒への調査を実施する。